



パソコンを捨て、街へ出よう

AI時代の職員・教員の働き方



① AIで時間を生む



② 地域に飛び出す



③ 地域とともにつくる



AIは、人を減らすためではなく、人と向き合う時間を増やすために。



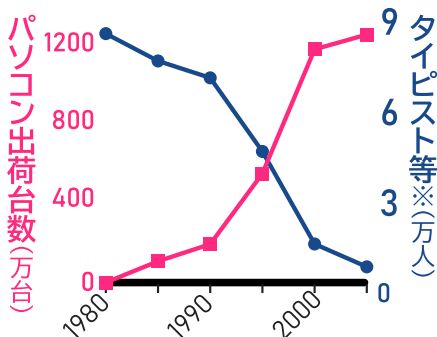
AIで事務を効率化し、市民と接する時間を増やすべき。



市民や地域の課題に向き合う時間を増やすことは重要。職員が地域へ足を運び、対話を重ねることこそ、まちを動かす力となる。

パソコンの普及によってタイピストが減ったように、技術革新は雇用を変えます。① AIの急速な発展によって今度はパソコンに向かう仕事の多くがAIによって代替されるでしょう。朝来市役所でもすでにAI利用職員は仕事の約1割をAIで代替できている可能性②があります。庁内文書をAIに参照させるRAGの活用③等により、この流れを加速させるべきと加藤は期待します。では空いた時間をどう使うか？私は、市民と接したり、地域の課題に向き合ったりと公務員本来の時間に充てるべきと考えます。それは「人と人がつながる」という朝来市の理念そのものです。9月議会ではAI時代の公務員像について質問しました。

① 技術革新は雇用を変える



※「速記者・タイピスト」, 2000, 05はワードプロセッサ操作員を含む
出典: 総務省「国勢調査」、JEITA「PC国内出荷実績」、佐野研究室「コンピュータに関する歴史的＝理論的研究」

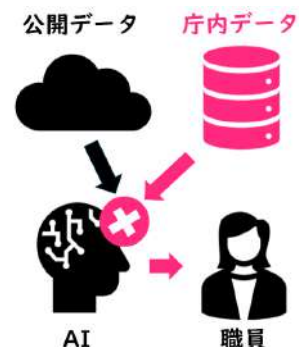
② 朝来市役所におけるAI利用

AIによる代替効果(参考値)=2,155時間
=15.5時間/人・月=13.5人分=9.7%



(2026年8月. 代替効果はシステム上の計算値で未検証の参考値)

③ RAGの活用



インターネット上の公開データに、庁内の会議録等の内部データを組み合わせてAIに推論させるのがRAG(検索拡張生成)である。朝来市ではすでに機能としては持っており、文書管理システムの導入により基盤は整うが、個人情報や機密情報の取扱いの整理が必要とのこと。



人でしかできない仕事をしよう ～AI時代の自治体組織像～

職員理念



理念は制度で縛るのではなく
組織文化を作るべき



「つながりを力に未来へ挑戦する」
これを浸透させ組織文化としたい



朝来市は地域に飛び出す公務員を応援する
首长連合に加盟している。公務員が自分の
時間を活用して積極的に地域で活動するこ
とで住民目線での行政、官民連携の推進に
つながる。ロゴは「公務員よ！飛び出せ！やり出せ！頭出
せ！」をイメージし朝来市の藤本さんがデザイン。

勤務制度



①地域に飛び出す職員の応援を
②副業しやすい環境整備を



①仕事の中でももっと地域に出向いてほしい
②国の通知に合わせ基準を整備したい

理念を人事評価に取り
入れる事例に関心がある



地域に飛び出す行動を
加点評価してはどうか



評価制度

政策系職員



地域にどんどん出て
官民連携のための対
話をすべき



官民双方の意識レベ
ル・事務レベルでの歩
み寄りが必要



リモートタウン ムスブ宮若(福岡県
宮若市)。市とトライアルカンパニー
による廃校活用事業。2020年3月
に企業から提案を受け、校舎改修・
開業を経て21年2月に開業。11か
月という通常の行政事業では異例
のスピードが企業から求められた
一方で、庁内稟議、地域説明、議会
議決など行政として必要なプロセス
を行った。官民の感覚と目線をい
かに合わせられるかが大事、と担
当者に学んだ。翌日に訪問した北
九州市では「官民共創プレイブッ
ク」を制作。そういった意識の差な
どを言語化し、官民連携の手法を
それぞれの立場から解説している。



官民共創
PLAY
BOOK



福祉系職員



ためまっぷ等を活用
し地域に出るべき

職員が地域住民との
関わりの中で変化や
課題に気づくように
したい

“やりたい”が見つかる、
人と人がつながる場所へ。



ためまっぷあさごは
市内のコミュニティカ
フェや居場所、ミニデ
イなどの開設情報を
発信・閲覧できるネッ
ト掲示板。どこかに出
向き、だれかとつな
がることで、孤立する人
や制度の狭間で取り
残される人を減らして
いこうという目的であ
る。国の推進する「重
層的支援体制整備事
業」を実現するための
重要なツールであると
加藤は考えている。

技術系職員



AI代替が難しい専門
技術人材は但馬2市3
町の広域で育成を

広域での人材育成は
有効な提案



国土交通省は群マ
ネという考えに重
点を置いている。
技術者不足と公共
インフラ老朽化の
二重苦を乗り越え
るため、複数自治
体や複数分野を群
で束ねて管理する
発想だ。朝来市を
含む但馬3市2町
も群マネを組み、
道路橋梁管理の
共有化等を検討
中。加藤は今後は
「人の群マネ」にも
積極的に取り組む
べきと考える。

教職員



教職員が地域に飛び
出せる意識作りを

地域主体の活動が学
校や教職員を動かす
可能性もある



あさなえネット熟議(山口県光市立
浅江小・中学校)。コミュニティス
クール主催の会議で、地域の小・
中・高生・教員・保護者・地域の方々
総勢140人が学校に集まり、町の未
来を語り合う。見学に行くと開始前
からみんな目を輝かせており、誰も
やらされている感がない。会議も積
極的な雰囲気で行進していく。何よ
りも、ほとんど全ての教職員が参加
していることに驚いた。教職員は異
動も多く、市外から通う方も多く、地
域に関心を持ちづらいというのが実
情だと思う。その中で、この会議を
通じて先生が地域を学ぶことで、地
域に対する熱量が上がっていく姿
を目の当たりにした。